

平成 29 年度 第四回 日高市公共施設再編・最適化の検討 に関するワークショップを開催しました。

- 開催日時 平成29年10月4日（水） 19:00～21:00
- 参加者 20名
- 会場 生涯学習センター 2階 研修室



🌞 今回のテーマ

公共施設の再編・最適化について考えよう②

第4回目となる本ワークショップでは、前回に引き続き「公共施設の再編・最適化について考えよう」をテーマに、地域別のグループに分かれて検討を行いました。20名の市民の方々にご参加いただき、高麗、高麗川(1)、高麗川(2)、高萩の4グループで、施設の再編・最適化の基本方針について貴重なご意見をいただきました。

前回は、マトリクス図と施設名が書かれたカードを用いて、市内のそれぞれの施設について ①距離（自宅からどの程度の距離に施設が必要か） ②行政依存度（民間企業や団体と連携した運営は可能か）について、議論を行いました。

今回は、前回4グループで検討した施設カード配置をとりまとめた事務局案を提示し、地域の視点から意見出しを行いました。これまで市全体の視点から行われた議論を、今回は地域ごとににより具体的な施設のあり方について掘り下げることができました。



会場の様子



各テーブルで行われた作業の様子

高麗地域の参加者の意見

- [illegible]



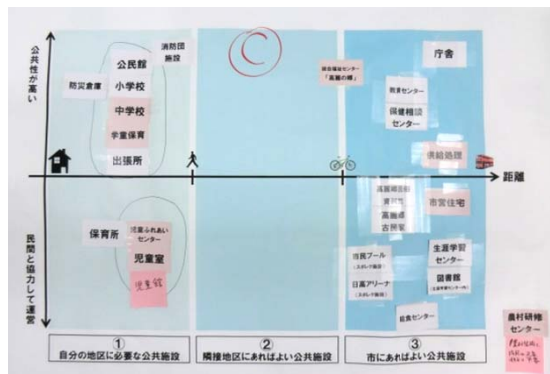
高麗川地域(1)の参加者の意見

- [illegible]



高麗川地域(2)の参加者の意見

- ◆ 施設の配置については、自分の地区にあればよい施設と、市内にあればよい施設で分かれた結果となった。
- ◆ 自分の地区に必要な施設については、大きな施設の中に様々な機能が集約されているとよい。教育施設や子育て支援施設は小中学校に集約し、隣接して公民館・出張所があれば、手続き等も簡易的に済んでよい。各地区にそのような拠点があると便利だと考える。
- ◆ 保育所、児童ふれあいセンター、児童室は民間に任せられるのではないかと。また、機能を複合化して、児童館のように子供の遊び場機能が併せてあると、居場所にもなる。狭山市の児童館は、プラネタリウムや相談機能があり、手本となるのではないかと。
- ◆ 民俗資料館と古民家は統合して、民間による運営に。
- ◆ 日高アリーナはもっと活用できる可能性があるが、夜 9 時までしか利用できず、制約が多い。ルールを考える必要がある。



高萩地域の参加者の意見

- ◆ 公共施設の数少なく、公共交通手段も少ない地域である。そのため、自家用車を所有している家庭が多く、市外の施設を利用する機会が多いという背景がある。
- ◆ 地域内でいきいきと暮らしていくためには、新しい建物が必要とは思っていない。子供やお年寄りが気軽に移動できる距離はせいぜい 500m 程度である。その 500m 以内にあるのが、公会堂である。その公会堂をもっと活用し、地元の人が集まれる、子供たちが遊びに行ける場所になってほしい。子供や高齢者など、車に乗れない人たちもコミュニティをつくり、愛着を持てる場所になってほしい。
- ◆ 現在市内にひとつある施設は、現状維持でひとつあればよいが、その機能の一部でも、地区内で享受できるものがあれば、さらによい。
- ◆ 市内にひとつしかない施設であっても、使い勝手がよくないと、活かない。公共施設は、コミュニティをつくっていく場所として意識して運営しなければ、宝の持ち腐れになってしまう。「この場所で何かやってみたい」という気持ちを邪魔しないような運営の仕組みが必要である。

